



「対話からの前進」～この1年をふりかえって～

市長に就任してから1年が経過いたしました。この1年間、多くの皆さまのご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

市長としての初めての1年は、市民の皆さまの声に耳を傾け、対話を重ねることを何より大切にまいりました。

人口減少・少子高齢化や防災・減災への対策、地域経済の活性化、教育・子育て環境の充実など、課題は山積しておりますが、一歩ずつ着実に取り組みを進めております。

特にこの1年は、吉田地区認定子ども園新築移転問題、中学校統合問題、議会だよりの復活等、少しずつ形が見えてきました。

まだまだ緒についたばかりではありますが、私は「やっぱりあったかいまち。誰も置きざりにしない安芸高田」を目指し、皆さまの声に耳を傾けながら、市政運営に取り組んでいく所存です。

皆さまとお約束した課題を1つずつ解決するために全力で職務に当たります。

市民の皆さまの声こそが、市政を前に進める原動力です。

今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

～安芸高田市長 藤本悦志の思い～



1年をふりかえって 私の
マニフェスト「5つのあったか
ビジョン」の進捗状況を思い
とともにお伝えします。



藤本ビジョン

1

ギスギスしない改革

「対話からの前進」をかがげ、とにかく市民の皆さまと直接対話してきました。

中学校統合も方向性を出すまでに延べ19回の対話集会を重ね、「吉田町内に新築1校」という結論に至りました。そして、その報告の対話集会を重ねる中で吉田小学校の移転についても意見をいただき、中学校新築と同時に検討することになりました。

議会広報も「対話からの前進」の一環で復活しました。

これからも基底には「対話」あるのみです。皆さまからの対話集会へのオファーもお待ちしております。

まずは「公共交通」についてです。令和6年10月開催の第2回芸備線再構築協議会から参加しています。三次から広島までをどうするのかという議論になったときに

遅れないようにしなければいけませんし、今一緒に議論することで今後の方向性を出すときに有利に働くのではという思いもあります。

向原吉田道路の開通に伴い、芸備線の時刻に合わせた向原吉田間のお太助バス運行も検討中です。

そして、「多文化共生」。安芸高田市に居住しておられる外国人の方は、1,100人ほどです。今や外国人技能実習生の方なくして、市内の産業はたちゆかないといってもいいくらい貴重な存在になっています。単に労働力を提供していただくということではなく、「おもてなしの心」を発揮し、外国人の方にも安芸高田市の魅力を届けたい。それは誰もが住みやすい「あったかいまちづくり」につながっていくはずです。

さらに、「支所機能の見直し」を考えています。具体的には、まず各支所と文化センターの統合をすすめます。次に証明書などの発行事務を含め、支所で行う窓口業務のほとんどを市内15の郵便局で取り扱えるようにします。



この仕組みを作るために総務省の補助金(約2千万円)を活用します。同時に各支所・文化センターに地域振興会に対する支援という役割を持つ集落支援員を配置します。これらのことは、行政サービスの充実を図りながら、地域の活性化へつなげるという重要な施策として位置付けているものです。

藤本ビジョン

3

すくすく子育てとまなび

安芸高田市の宝である子どもたちがすくすくのびやかに成長してほしいという願いは誰もが持つ共通の思いです。

「認定こども園建設」については、「小さな子どもたちが小学校区をこえて通園するのは

無理があるのではないかと「中心地に保育所がないのはまちづくりの点から考えてもいかなものか」などというご意見を、多くの方から頂戴しました。そして何より、可愛地区には民間の法人が70年にわたり子どもたちの保育を守ってきていただいている、そこへ、こども園を持って行って、今までやってこられた方の思いを踏みにじるようなことを行政がやるべきではないという思いから、吉田小学校区内に建設するという判断をしました。建設予定地の地権者の方にも私の思いをご理解いただき、2029年4月1日開園を目指し、鋭意奮闘中です。

また、「フリースクールへの補助事業」を創設しました。必ずしも「学びの場」は学校だけではない、行政として、子どもたちが多様な学びの場を選択できるようにしたいという思いからです。「誰も置きざりにしない」という私の信念の具体的取り組みの一つです。



ぬくもりのふくしと シニアの底力

やはり「医療体制の整備」は命に直結する最重要課題です。JA吉田総合病院は新聞報道



によると年間4億円の赤字で厳しい財政状況にあるとのこと。経営再建については病院側でもがんばっていただいています。夜間、救急の医療体制の整備という点では行政にも大きな責任があると考えています。そのため国の特別交付税を4千万円追加要望し、総額1億4千万円の補助をしました。吉田病院とは、現在、病床数や診療科目の見直しなどについて、協議継続中です。



がんばる産業はまちの原動力

まず、「企業誘致」。4月から市長直轄で「政策統括監」という職を置き、様々な企業にアプローチしています。現在、安芸高田市への「ホテル誘致」も優先課題として取り組んでいます。

さらに、工場を拡大したいと考えておられる市内企業もいらっしゃるの、安芸高田市内で実現してもらえるよう、土地や雇用の情報を積極的に提供するなど、企業との協議を重ねています。

「農業振興」については、大規模農家だけでなく小規模農家も、道の駅への出荷など、しっかり稼いでいただけるよう支援していきます。

以上、全ては書ききれませんが、私のマニフェストの進捗状況を、思いとともに報告させていただきました。この1年間、皆さまの思いを受け止め、職員ともしっかりと対話をしながら、一步一步前に進んできました。国や県とも良好な関係を再構築しましたので、これからももしっかり連携していきます。

市政にはたくさんの課題がありますが、一つ一つ解決していくしかありません。政治は結果だと思っています。成果が見える形でお示しするべく、引き続き全力で「やっぱりあったかいまち」安芸高田市を目指して職務に当たります。

先日、関西万博で安芸高田市の誇る神楽が上演されました。安芸高田市の知名度が上がり、湯治村のお客さまも増えているようです。今後も神楽をはじめ、安芸高田市の魅力をしっかり発信していきます。皆さまとともに賑わいのある安芸高田市を創っていきたいと思います。よろしくお願いします。



ある日の横顔

暑さよりも雨風による寒さ対応に追われた今年の田植え。例年のごとく地域の方々の助けを借りて、無事に田植えができました。家族も集まりました。大切に大好きな時間のひとつです。



息子と一緒に



畔にて地域の方と孫のひとコマ



誕生日に職員が飾ってくれました

あ と が き



後援会報第4号の発刊にあたって

藤本えつし後援会長 上 田 隆 之

多くの皆さまの絶大なるご支持をいただき、藤本悦志安芸高田市長が誕生して、はや1年が経ちました。その間の彼の活動・活躍ぶりは、新聞テレビ等の報道でご存知のことと思いますが、そのいくつかを、会報4号として掲載させていただきました。ご覧いただきますように、市民の皆さまのご協力・市議会の皆さまのご支持・職員の使命感に基づく仕事ぶりに支えられ、順調なスタートを切っております。

時折、遠来の友人も言ってくれます。「上田さんよ。安芸高田市にも、やっと平和が来たのおー」と。

しかし、安心しておるわけにはいきません。「厳しい財政を有効に活用したまちづくり」を進めていくためには、職員の一層のやる気を引き出ししながら、藤本市政のバージョンアップをしていかななくてはなりません。安芸高田市は将来どうあるべきか。後援会員の皆さまの一層の叱咤・激励をいただきながら頑張りたいと思います。

どうぞ、引き続き、皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いします。

発行 藤本えつし後援会 会長 上田隆之

〒739-1801

安芸高田市高宮町川根2137-2

Tel 070-8973-4540

Email fujimoto.etsushi@gmail.com



ホームページ



X



Facebook



YouTube

公式LINE
友達追加よろしく
お願いします！

